

北但大震災の概要

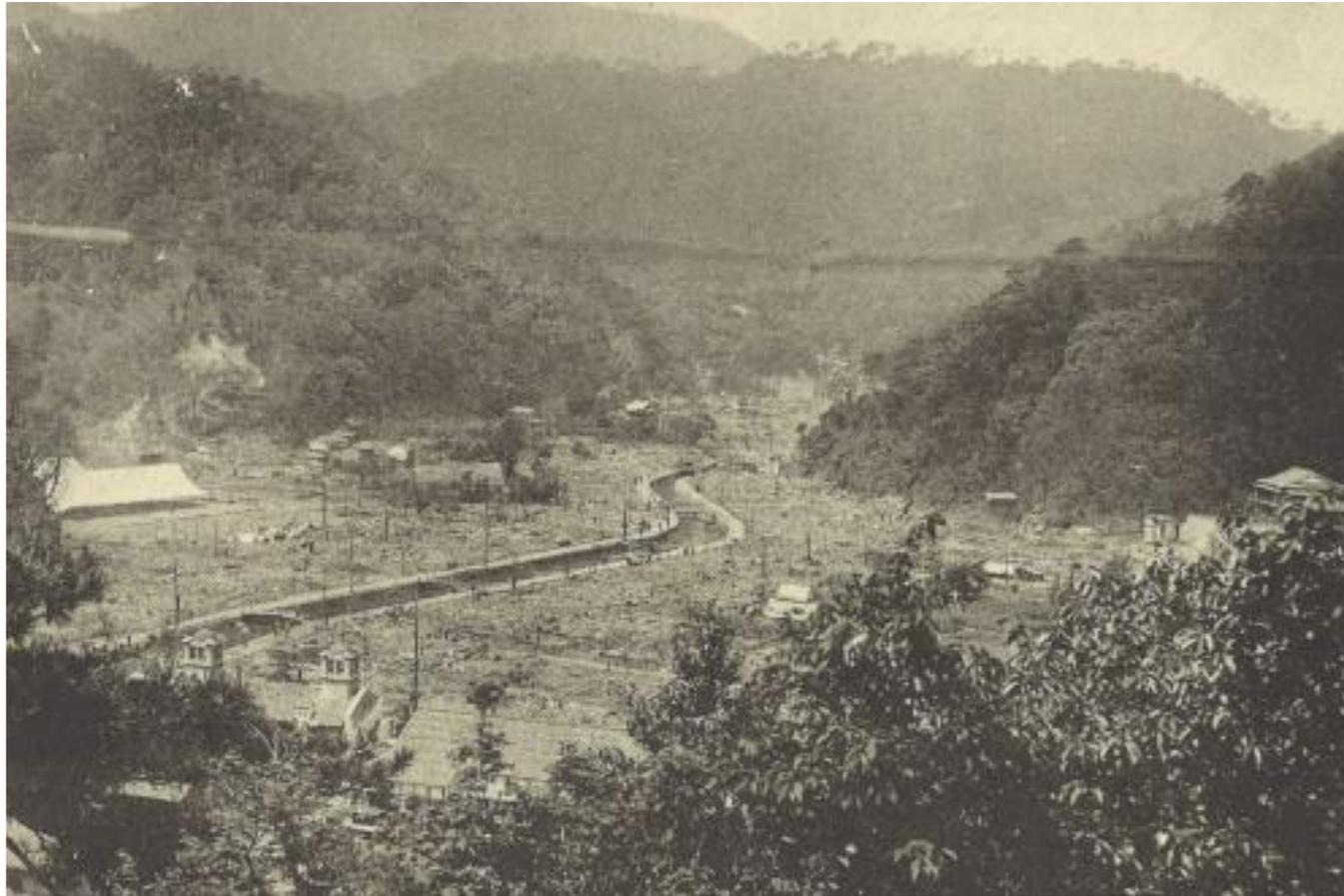
大正14年5月23日午前11時9分57秒、豊岡・城崎方面に烈震があり、初めは水平動、次に上下動となって多数の家屋が倒壊、間もなく火を発し、火は24日未明に及んだ。震源地は円山川河口数マイルの深さ50km前後のところ、マグニチュード7（現在は6.8とされている）と言われている。

被害は、人家・人口が密集する豊岡町で大きかったのは当然であるが、総戸数・総人口に対する被災比で見ると、震源に近い港地区が最大で豊岡町がそれに次いでいる。【豊岡市史より】



地蔵湯付近より眺めた城崎温泉大焼跡

被害状況



城崎町の焼け跡



城崎町の焼け跡

城崎では272人が死亡し、その72%が女性であった。宿の一階台所で昼食の準備中の女性が、家屋倒壊によって圧死ししたほか、柱に挟まれたり閉じ込められたまま、襲いかかった猛火の犠牲になったケースが大半。北但大震災の最大の犠牲者は城崎の女性達であった。

軽傷者やちょっとした物の下敷きになった者は、無事な者に助けられ、危うく火から逃れたが、「両足を梁に挟まれて、その苦痛に耐えられず、ひと思いに殺してくれとせがまれ、できないのならば刃物を貸してくれと号泣するのを、ついに見捨てて立ち退いた。」という悲惨な話も珍しくなかった。

【神戸新聞社編「城崎物語」より】

被害状況



地蔵方面を望む



一の湯付近より東山公園方面を見る

城崎町では家屋倒潰で道路が塞がった関係もあって、消防活動ができず家の下敷きになったまま焼死する者、逃げた山林に延焼してそこで焼死する者などが多く、さながら生き地獄の様相を呈し、湯島区は殆ど全焼した。

内川村地区では、飯谷で養蚕用暖房から出火し、部落の北部半数が焼失したが他部落は火災を免れた。【城崎町史より】

被害状況



津居山の震火災

港地区は震源に近く、津居山は250戸のうち145戸が焼失し、残る105戸が全半焼した。

田結は周辺山間部に断層亀裂を生じるなど、直接的な物理的衝撃が大きく、死者数7名は人口比1.6%で、火災による死者が多い城崎町の7.65%には及ばないものの、火災の無かった地区としては人的被害が大きかった。

多くの被災地区が火災の後遺症によって被害記録の作成保存にも影響を受けたと思われるが、火災のなかった田結地区では震災記録が豊富に保存されていた。【豊岡市史より】



津居山の被害

被害状況



城崎町地蔵湯より焼け跡一帯を望む



城崎町旅館三木屋西村屋付近の惨状

今回の大震災は各浴場とも入浴客に圧死、焼死者数名を出し、真に灼熱地獄が現れ、6箇所温泉中地蔵湯の一部を残して倒壊焼失し、無慙にも破壊された浴槽には湯気のみ無常に立ち上り、寂莫荒涼の中に昔日の面影を偲ばせるのみ。【北但震災誌より】

被害状況



製氷倉庫の焼け跡に燻った氷の山

激しい火災が襲い、町の全てをのみ込まれた城崎の町に製氷倉庫の氷の山がおなじく、くすぶった状態で残されている。

右は、跡形もなくなった但馬銀行である。



但馬銀行焼け跡

被害状況



倒壊した城崎駅

激しい地震の揺れで、倒壊した城崎駅。
倒れた瓦礫の中にホームの駅名を表示したプレートが見える。



倒壊した城崎駅

被害状況



城崎駅通り

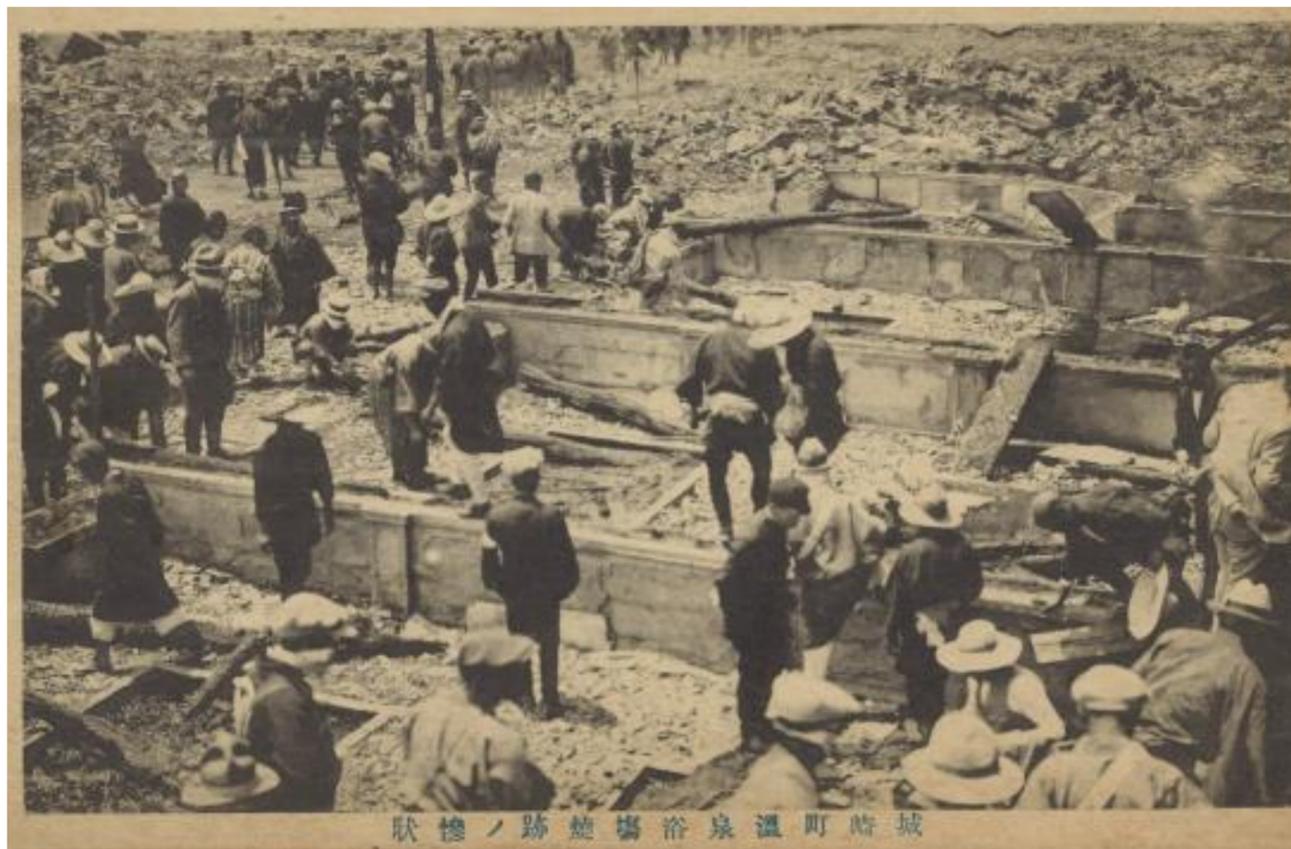


大谿川沿い

	総戸数	全壊 (%)	半壊 (%)	破損 (%)	焼失 (%)	合計 (%)
城崎町	702		6 (0.9)	88 (12.5)	548 (78.1)	642 (91.5)
内川村	305	61 (20.0)	50 (16.4)	79 (25.9)	27 (8.9)	217 (71.1)

【北但震災誌より】

被害状況



城崎町温泉浴場焼け跡の惨状



城崎郡一日市村の土工工事用機関車の転覆

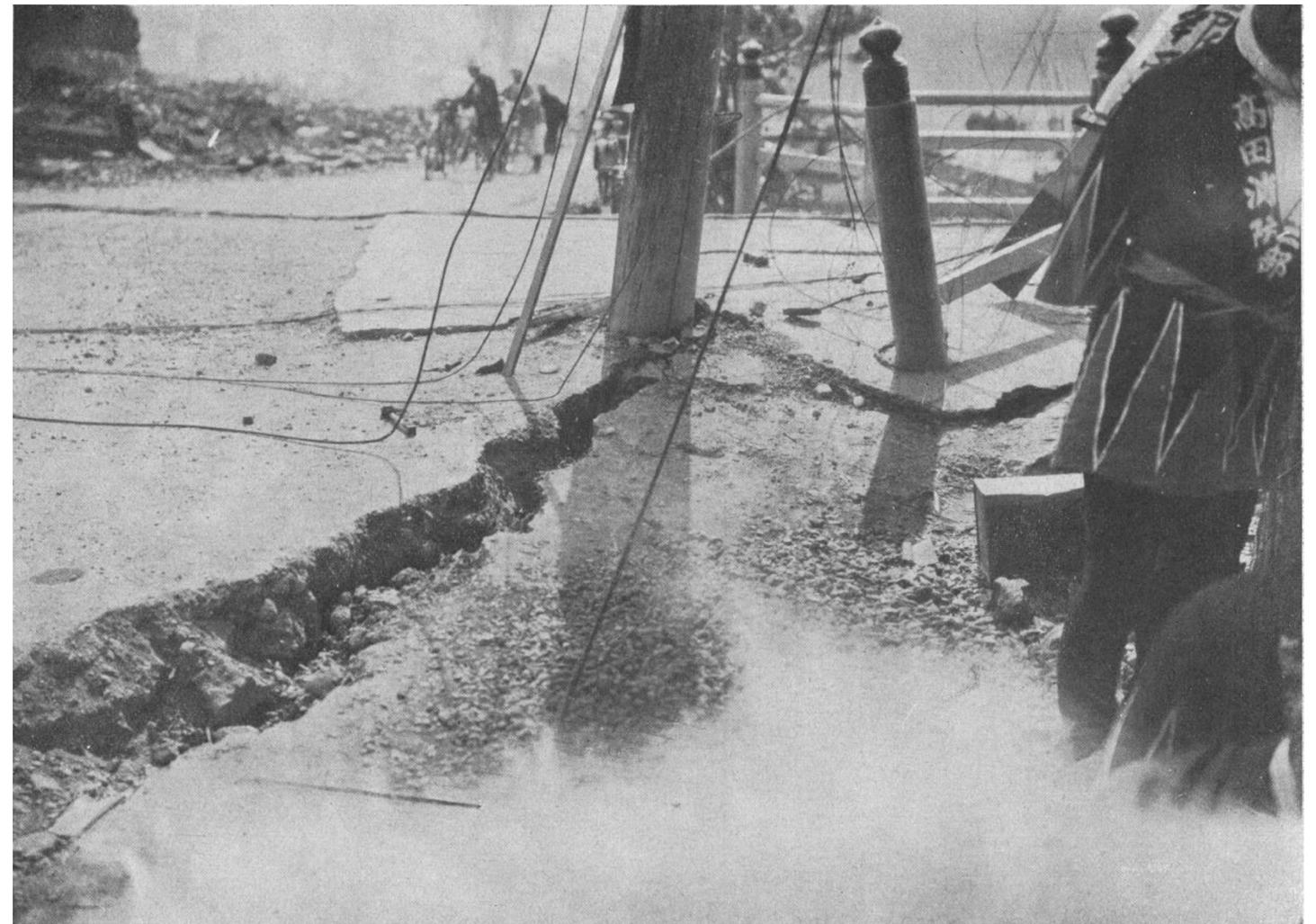
罹災者は焼け跡を彷徨して家族の遺体搜索を為す等、その惨状実に見るに堪えないものがあった。

また発震の際は浴客の多数が入浴する時刻であり、6箇所浴場は皆大混乱を生じ、避難できたのはこの内2箇所に過ぎず、その他は殆ど倒壊に遭い、浴客の焼死した者が甚だ多かった。【北但震災誌より】

被害状況



震災時を示す城崎駅の時計



城崎地蔵湯へ行く道路の亀裂

道路はその地質や構造により被害の程度が異なるが、震源地に近い港村、城崎町、内川村付近においては、五寸（約15cm）ないし一尺（約30cm）前後地盤が沈下し、満潮時には海水が路上に至り、一般通行に支障が出た。

また南北方向に亀裂がはいり、法面、土羽、土留、石垣等の崩落が発生し、改築又は修繕が必要となった。【北但震災誌より】

災害支援



城崎極楽寺の大阪毎日新聞社救護班

大阪毎日新聞社によるいち早い救護活動。また、被災しながらも地元城崎の青年団による支援活動が行われている。

特に被災者でもある城崎青年団のこうした助け合いの活動は、共助の大切さを今に教えてくれる。

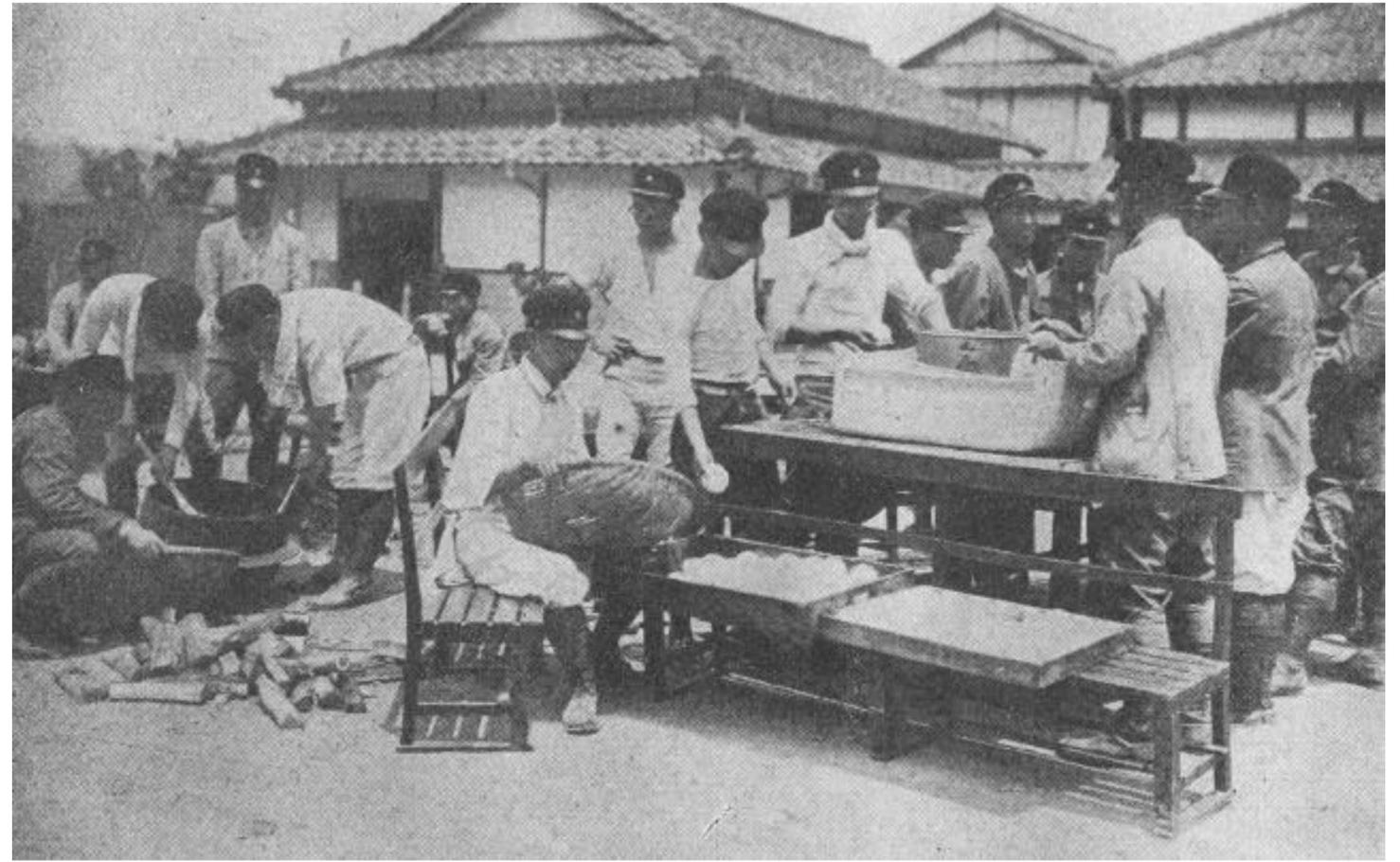


城崎青年団の活動

災害支援



救護に従事する軍隊



鳥取高等農業学校の食料班

鳥取高等農業学校では、震災の報が伝わるとすぐに学生有志で救援隊を組織し、鉄道開通を待って直ぐに出発救援作業に従事することを決め、5月25日汽車開通と同時に2班を組織し、第1班（20名）は城崎に、第2班（15名）は豊岡に急行し、救援作業に従事した。

【北但震災誌より】

災 害 支 援



歯科救療所の貼り紙

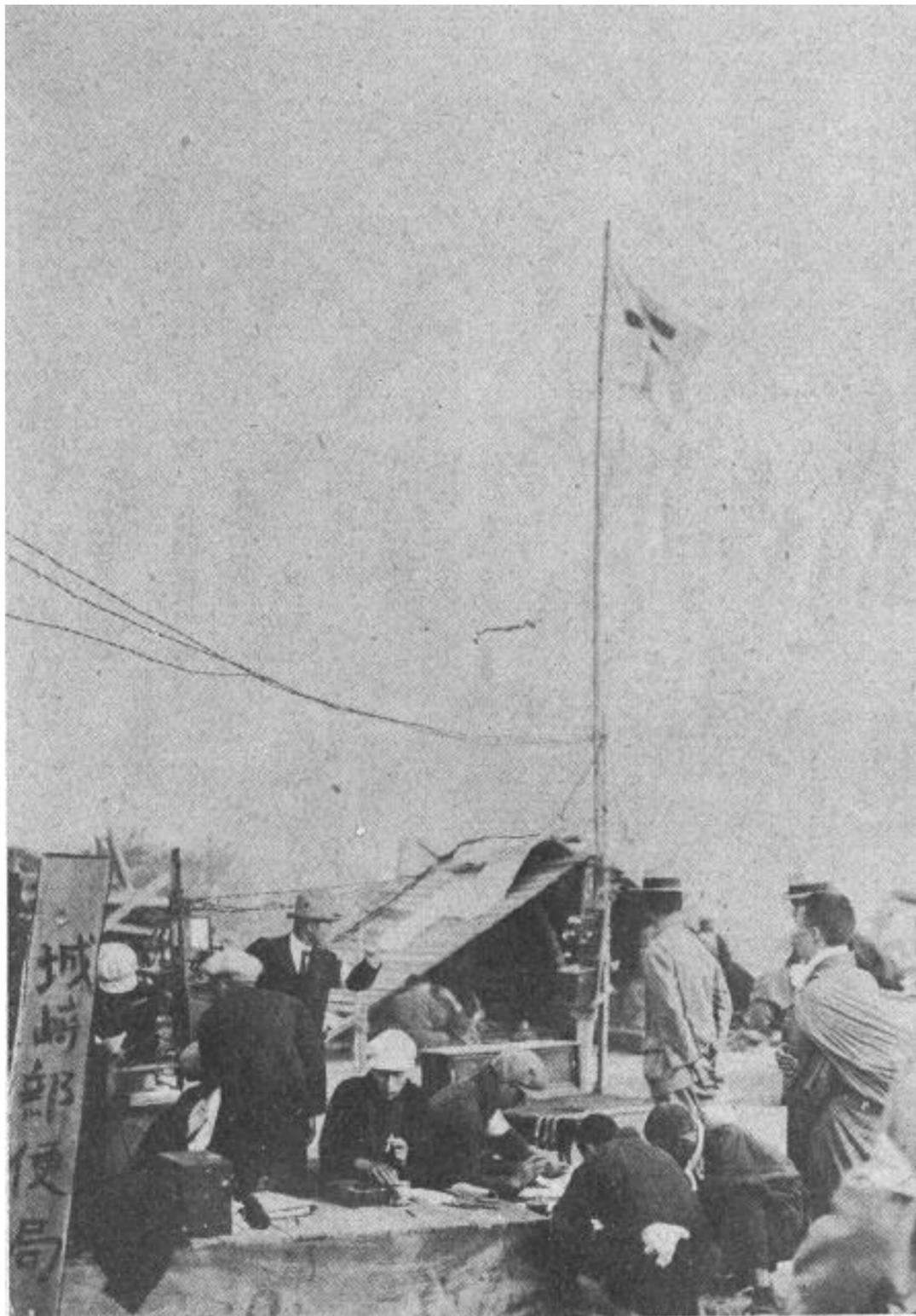
但馬の歯科医師による活動と思われる。倒壊を免れた建物でいち早く、被災地支援活動を行っている。また、宗教団体による活動も行われていた。

このような心温まる支援は大震災からの復旧・復興に向け日々休むことなく活動している人たちの心に、どれだけ温もりを与えるものだっただろうか。



宗教団体による接待風呂

災 害 支 援



露天に開かれた城崎郵便局



城崎駅の負傷者運搬

城崎郵便局は、同駅前にて天幕を張り局舎を設け、電信及び市外電話線は24日午前6時罹障回線全部の仮復旧を終えた。【北但震災誌より】

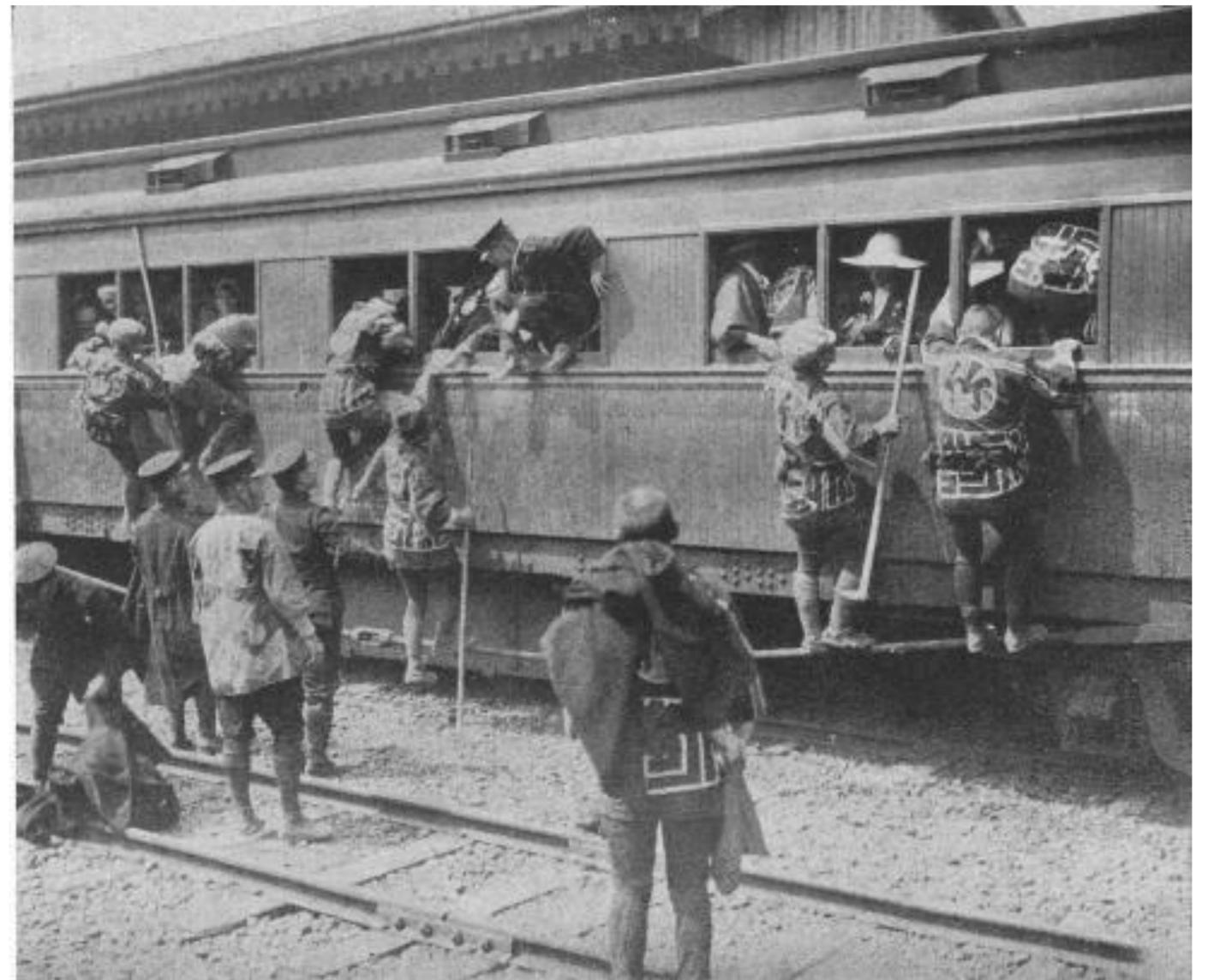
また、城崎駅では、家屋倒壊などで負傷した人を運ぶ姿が多く見られた。

避難者の様子



城崎発の列車にあふれる避難者

車両からあふれる人たち。被災地において鉄道は様々なものを運ぶ重要な手段であった。



城崎発の列車にあふれる避難者

災害からの復興



城崎小学校校舎焼け跡に築造された大テント仮教室

大正14年5月28日午前9時、大テント内で授業が再開された。267名が集まる中、西村町長が、5日を経てなお虚脱状態にある町民に対し、児童を通じて覚醒せしめようと熱弁を揮った。

【城崎町史より】



城崎駅前付近のテント

災害からの復興



復興した城崎一の湯

温泉街復興の第一として、まず温泉浴場（外湯）の復旧が進められ、大正15年から昭和7年に6か所の浴場を新築、土地区画整理にあわせ、外湯を中心とした旅館・商店・街並み等、現在の城崎温泉の骨格が昭和10年に概ね完成した。

【豊岡市環境経済部大交流課】



川の中に投げ込んだ家具を拾う

災害からの復興



城崎町御巡視の黒田侍従



片岡内務次官(中央)の視察、西村城崎町長(右)

震災当時の城崎町長である西村佐兵衛翁は、コートに地下足袋姿、首からメガホンをぶらさげた格好で走り回り、町民を奮い立たせて焦土と化した城崎を復興へと導いた。

災害からの復興



城崎小学校仮テント教室授業(1)



城崎小学校仮テント教室授業(2)

校舎が全壊した楽々浦小学校は、5月31日まで臨時休校し、6月1日から5・6年生は川を渡って上山小学校に通い、4年生は野外授業を受けた。

7月2日に旧校舎の修理が完了したので、以後統合まで全校生が旧校舎で学習することになった。【北但震災誌より】